

平成28年度第1回長野県信濃美術館協議会

○開催日時 平成28年7月26日（火）午後1時30分～午後3時

○場 所 長野県信濃美術館 講堂

○出席者

【委員】

石川利江委員、 小坂壮太郎委員、 猿渡紀代子委員、 古田 亮委員
若麻積信昭委員、 和田 功委員

【一般財団法人長野県文化振興事業団】

常務理事 松本有司

【長野県県民文化部】

文化政策課長 中坪成海、 主査 霜田英子

【長野県信濃美術館】

館長 橋本光明、 副館長 中部俊彦

学芸課 研究主幹 瀬尾典昭、 主任学芸員 木内真由美、 学芸員 上沢 修
総務課 主任 和田 貢

1 開 会

○上沢学芸員

定刻となりましたので、ただいまから平成28年度長野県信濃美術館協議会を開会いたします。私は学芸課学芸員の上沢修と申します。本日の進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

例年、当協議会は公開で開催しておりますので、ご了承をお願いいたします。

初めに、長野県信濃美術館館長の橋本光明からごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

○橋本館長

本日はご多用の中、また雨の中、ご出席いただきましてありがとうございます。今、紹介に預かりました館長の橋本です。よろしくお願いいたします。

この美術館は、指定管理制度のもとで管理運営を始めたのがちょうど今から10年前の平成18年ということになります。18年度からは3年間で1期の指定管理でした。3年間ではなかなか美術館経営というのは難しいというところから、5年というサイクルになりました。21年度から25年度までの第2期、その途中で、私、着任いたしました。第3期は平成26年度からの5年間ですけれども、その3年目というのがこの本年度に当たります。

既に、この館報をお渡しいたしましたけれども、第3期として何を特色として出そうかということになりまして、やはり地域と連携を組んで、開かれた美術館にしようというのが大きな目的でございました。そういう地域との連携ということを構想する上で、今日ご出席いただきました猿渡委員さんには、3年前アドバイザーとしてお招きいたしましてご助言をいただきました。貴重な資料もいただきました。そのご助言や資料が大変役立ちました。これによって、我々はどういうふうな地域に出ていくかということになりました。

それから、実際にそれを実行するとなると、地域の方々とのかわりが非常に重要になって

くるんですが、そういう点では、石川委員さんにいろいろな面でご支援いただいております。猿渡委員さん、それから石川委員さん、本当にこの地域ということの視点から考えますと、大変、私にとって、また職員にとってありがたい存在だと思っております。この場を借りまして御礼申し上げます。ありがとうございます。

それから幸いに、この地域にというときに、昨年3月、北陸新幹線が開通しました。いわゆる長野から金沢まで延伸いたしました。そういったところで、長野の駅が新しくでき上がり、駅ビルのMIDORIさんもきれいに整って、そこに、駅を降りると上のほうにあるんですが、東山魁夷さんの作品、それからMIDORIさんのご協力で池田満寿夫、それから松井康成の作品を展示することができました。これによって、駅を降りて美術館との関係が初めてでき上がりました。駅、それから表参道、そして善光寺、そしてここの美術館という直線がつながれたと思われまふ。そういった点では、これをもっともっと太く、太いパイプにしていかなければいけません。その中でお隣の善光寺さんには、もう今までもいろいろな面でご協力をいただいておりますけれども、若麻績委員さんのお力を今まで以上に、また私たち求めていきますので、またその連携を深めていただければありがたいと、そう思っております。

それから、昨年度から県は文化振興元年ということで、積極的に文化芸術の振興に当たってまいりました。その関連というよりも、そのちょっと前から、26年ですね、26年度に、これは東山魁夷館が去年25周年を迎えたんですけれども、東山魁夷さんからたくさんの作品や資料を寄贈していただきました。ところが、県は今まで東山魁夷さんの作品を買ったことがなかったんですね。大変失礼なことをしてきたということで、県もそれに気がつきまして、その26年に草仰ぐという作品を購入いたしました。そのときに古田先生にお世話になりました。大変、馬の絵ですので、なかなか手放さない作品でしたけれども、私たちにとって、今、九博に今、展示してありますけれども、本当にありがたいことでした。そういった意味で、古田先生ありがとうございました。その節は。

それから、信濃美術館は、この10月1日に50年目を迎えます。50周年記念のイベントを今、構想中です。検討しております。そういったことを考えるに及んで、当然ながら信濃毎日新聞社さんの創設からのご尽力、これは忘れてはなりません。今日、小坂委員さんがいらっしゃっておりますけれども、いつもいつも温かいお言葉を私たちにいただいております。本当に感謝しております。ありがとうございます。

そして、この地域ばかりではなくて、私たちやはり大学との関係もあります。幸いに、元の山沢学長と私とはもう長いつき合いで、仕事も一緒に平のときにやってきましたので、山沢学長がなられたときには、タイミングを図って私は連携をしようということ呼びかけたら、橋本さんやりましょうということで、連携を3年前に結びました。そしてそのとき私は記者発表でも言いましたが、近い工学部や、実は長野市には工学部と教育学部がありまして、ほかは、たこ足大学というように上田に繊維、伊那に農学、それから松本が本部ですが、そこに人文とか経済とか医学等が集まればばらなんですね。それを見通しまして、私が今回は美術館に近いところだけで連携を組むのではありませんと、全体の学部と連携していきたいということを強調いたしました。それで非常に芸術面と関係のある繊維学部今回お願いしました。幸いに、古くから、これまたもう25年ぐらになりますか、山本巖名誉教授、お互いに仕事してきた仲ですので、山本前教授と下坂学部長さんに誰かいい人をお願いすると電話をしましたら、もう早速いい人がいらっしゃるといふことで、今回、ここにいらっしゃいます和田委員さんをご推薦していただきました。

濱田学長さんが現学長ですが、この方も繊維なんです。今は信州大全体では繊維学部が一番元気があるといふところで、そういう意味でも和田委員さんに、あそこは感性工学という分野があります。そこの中に入っていますけれども、デザイン、プロダクトデザインでいらっしゃいますけれども、そういうご専門性の中から忌憚のないご意見をいただければとお願いしたい

と思います。

1時間半ぐらいの協議会となります。本当は輪になって、本当に親しい中で話したほうがいいんですけども、今まで小坂委員、石川委員さんのおかげで、いつもこちらとこちらで座っていましたけれども、今回、ちょっと映像を使いたいというので、ちょっと向きを変えて雰囲気を変えてみました。短い時間でございますけれども、それぞれの委員さんから運営管理につきまして、本当に率直なご意見、ご感想をいただければ大変ありがたいと、そう思っております。その気持ちを込めましてあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

○上沢学芸員

ここで、委員の皆様の自己紹介をお願いしたく存じます。石川委員さんから着席順でお願い申し上げます。マイクはちょっとそちらのほうに、申しわけございません。よろしく願いいたします。

○石川委員

この委員会、何年、私、大分長くやらせていただいている、今回、メンバーが小坂委員と私を残して大分新しくなりまして、何か新しくまたもう一度、ある意味で、気持ちも何か新たにという気持ちになりました。

信濃美術館、いろいろな形で、今、新しい美術館の準備も含めてたくさんのいろいろな検討事項を抱えていらっしゃると思いますが、長野県の美術館、そして長野県全体の芸術文化のジャンルがより活性化するようにと思っておりますので、一生懸命務めさせていただきます。

長野市内で、自己紹介が遅れました。善光寺のちょっと下で、石川地域文化企画室という事務所と、ガレリア表参道というギャラリーをやらせていただいております。またよろしく願いいたします。

○小坂委員

長野県で地方紙を発行しております、信濃毎日新聞の小坂壮太郎と申します。よろしく願いいたします。

私は美術に対する素養が大してあるわけでもございませんが、これからこの美術館、子どものころから親しんできたものですので、この美術館がこの善光寺、城山公園と一体化して新しく生まれ変わる議論の始まりを大変楽しみにしておりますので、少しでも役に立つ意見を述べられればと思っております。よろしく願いいたします。

○猿渡委員

一応、このリストには三溪園の組織名が書かれているんですが、私は横浜美術館の開館準備のごく初期から学芸員を30年ほど務めまして、定年を過ぎてからも、現在も非常勤で特任研究員という形で横浜美術館、そして同じ横浜市芸術文化振興財団が運営しております、横浜で唯一の文学館である大佛次郎記念館で働いております。同時に原三溪さんの美術コレクターであり、自らも文人画家であったり、茶人であったりという多面的な原三溪さんをもっと顕彰しようという運動というか、市民グループを何年前に立ち上げてまして、そういったご縁から現在、三溪のほうの理事も務めさせていただいております。

この美術館のことは、本当に数年前の指定管理者の応札のころからとても気になっておりまして、今回、充実した資料をいただいて、着実に実行力をもう形にしているなということで、とても今回、ここにお招き、お呼びいただきましてとてもうれしく存じております。どうぞよろしく願いいたします。

○古田委員

東京藝術大学の古田です。私は美術史及び学芸員という立場でお招きいただいたのかと思いますけれども。学芸員、キャリアは割りと長くて、大学を博士課程の途中から東京国立博物館にまず入りまして、次が東京国立近代美術館、で、今の東京藝大の美術館、だんだん小さくなっていっているんですけれども、いずれも国の、元は国といたしますか、というところで働いてまいりました。そういう経験が何かお役に立てばと思ってまいりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

○若麻績委員

皆さんこんにちは。はじめまして、改めまして、この4月から善光寺事務総長になりました、浄願坊住職、若麻績信昭と申します。よろしくお願い申し上げます。

改めましてというのは、実は8年前に2年間ということで、2回目の事務総長でございます。そしてまた、こちらのほう、城山公園から善光寺のほうを見ると、土塁というか、そういうようなものが見えるんですけれども、当初はこちらのほうにお城があったので、その何かのものではないかという、そういうような意見があったわけでございますけれども、いろいろ歴史的なものを調べると、あれはただ単なる湯福川の氾濫を防ぐための土塁ではないのかなということございまして、あれを、では壊してなるべくこちらの美術館、公園を一体化できるような形にすればなおよいのではないかという意見が出ていまして、どちらか公園側なのか、それとも北側の弓道場側になるのか、それとも両方ともつぶすのかという、そこまではちょっと意見はまとまっておりませんけれども、そんなような形でこれから善光寺と美術館、公園という、美術館というものをますます一体化ということを目指しているところでございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

○和田委員

はじめまして。信州大学の和田と申します。信州大学の繊維学部はここからちょっと離れた上田というところにございまして、今、真田丸で話題にはなっているんですけれども。

私自身は実は繊維学部の教授陣の中でも毛色の最も変わった人間でして、ほとんど今のキャリアが民間におりました。最初パイオニアにいて、それからソニーにいて、10数年ですが、それから自分で事務所を起こして商品企画、プロダクトデザインをやる事務所ずっと、20年近くやっけていまして、3年半ほど前に、最後のキャリアでは若い人たちに文化であるとかデザインであるとか、ものづくりを伝えたいということで、感性工学という信州大学の中にある、さらに変わったところの感性工学というところでお世話になるようになりました。

そういったことで、実を言うと、実は自宅も今、静岡県の浜松にございまして、逆にいうと、その長野県の文化というものを今まであまり触れてこなかった人間ですので、もしかしたら変わったことを言ったり、失礼なことを申し上げてしまうかもしれませんけれども、まあ、そのときはご容赦いただいて、またちゃんご指摘いただいた上で、いろいろな考え方が皆さんと一緒にできればと思っておりますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

○上沢学芸員

ありがとうございます。なお、本日所用のため、北島委員さん、大月委員さん、中平委員さん、バーナー委員さんが欠席されておりますので、ご報告申し上げます。

続きまして関係職員を紹介いたします。初めに、当美術館を所管しております長野県県民文化部文化政策課長の中坪成海でございます。同じく文化政策課主査、霜田英子でございます。

続いて、当美術館が所属しております一般財団法人長野県文化振興事業団の常務理事、松本

有司でございます。

次に信濃美術館の職員を紹介いたします。副館長の中部俊彦でございます。

当館、課が学芸課と総務課の2課制となっておりますが、学芸課研究主幹の瀬尾典昭です。同じく、主任学芸員の木内真由美です。次に総務課の和田貢でございます。

それでは、まず会議資料のご確認をお願いいたします。

事前に送付させていただきましたものですが、協議会次第、出席者名簿、表紙に平成28年度長野県信濃美術館協議会説明資料と記載してある資料、そしてカラー刷りとなっておりますパワーポイント説明資料の平成27年度事業実施状況、次に信濃美術館の整備に関する検討状況について、信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針案（案）について、それから別物としまして、冊子としまして館報、平成27年度及び善光寺門前研究プロジェクトでございます。また本日配付いたしておりますのが配席図、及び変更がありましたので出席名簿、それから当館及び、現在展示しておりますパンフレットを添えてございます。今、申し上げた中で不足等がありましたらお申し出ください。不足のほうはないでしょうか。

それでは引き続き、すみません、こちらに今、出席しております職員のほうをご紹介いたします。

こちら学芸課の松浦千栄子。続いて松井正。広報の竹澤未央。以上でございます。

次に議長でございますが、当協議会は館長の諮問機関として位置づけられておりますので、以後の議事は館長が進行してまいります。では橋本館長、お願いいたします。

3 議 事

(1) 展覧会実施状況について

(2) 教育普及事業等について

○橋本館長

全員がここに来ますと仕事ができないので、あと5～6人職員がおりますが、下で働いております。一言申し上げておきます。

それでは、今、司会が申しあげましたように、私が議事の進行をさせていただきます。おおむね終了を3時15分ごろを目途に議事を進めさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

それでは最初に議題3の(1)と(2)について、まず(1)の展覧会実施状況について、及び(2)教育普及事業等について、これを一括して副館長及び事務局から説明申し上げます。お願いいたします。

○中部副館長

展覧会実施状況について説明

○木内主任学芸員

教育普及事業等について説明

○橋本館長

ありがとうございます。今、時計を見たら1時間もこちら側が発信し過ぎています、もうち

よっと短くしないと申しわけないなと思っています。

20～30分ぐらいしかありませんけれども、ご感想なり、またご意見なりご提案をもうまとめて、ご質問も含めましてごちようだいしたいと思います。いかがでしょうか、どんなところからでも結構です。

○和田委員

質問ですけれども、この美術館自体の模様替えとか、あるいは部分的にはもう建て直しという計画というのはあるんでしょうか。

○橋本館長

あいさつの中で、あえて、私、言わなかったのは、指定管理者というのはどんな古ぼけた建物でもその中で運営をするのが私たちの役目なんですね。ですから、建物について、ああしろこうしろという権限がありません。だから、それは県が考えることで、だからあえて私は建物のことについては申し上げなかった。

その後、今日、本当に20分ぐらいですけれども、現在の状況については、中坪課長さんから後ほどご報告ということであります。

○和田委員

ありがとうございました。

○橋本館長

秋にもう一回、この協議会あります。そのときは、今回は初めてですので、お互いを知ることと、それから昨年度の事業についてですので、何か過去を振り向くだけで建設的ではございませんけれども、今回、時間の関係でそこだけにとどめたいと思っております。すみません。

○小坂委員

今のご報告を聞いて、この美術館の展示にとどまらず、随分町へ出たり、いろいろな活動を展開していらっしゃるというのがわかったんですが。

そういった、外へ出て行った催しに対する反応ですとか、それが美術館というものの認識につながっているのか、そこら辺の感触をお聞かせいただきたいと思います。

○橋本館長

それは学芸員のほうから。

○木内主任学芸員

美術館、どうですか西川さん、逆につながってほしいとは私は思っていますけれども。はっきりと、もちろん新聞等にも取り上げられて、信濃美術館も関わっているということは報道されているというふうには認識しておりますが、やはりこういう活動を続けて行って初めて美術館の人たちも出てきたという形になってくるのかなというふうには思っておりますが。

手ごたえとしては非常に、やはり町の中に入っていくことでいろいろな人たちと関わりがあるわけですけれども、そうすることではすごく喜んでくださいますし、直接的に関わりがあった、例えば先ほど門前に展示をしていきましたけれども、そのときに商店会の方たちともかなりのやりとりがあって、またそういう方たちが美術館に見に来ていただくとか、そういうふうなことも、あとはこの地域は第2地区というところになりますが、私どもも今まではそんな

ことも意識もせずに活動はしてきましたけれども、つい先日も第2地区のほうで、皆さんで鑑賞会のほうを企画していただいて、そういうような関わりがやっと、美術館と地域で出てきたかなというのは実感としてはございます。

○橋本館長

館報に書きましたように、管理の面で、いい作品を出すどうしても難しいのですが、リトグラフなんかを、30店舗にお貸しして大変反響があった。それがまたもう一回やってくださいという声がありまして、また夏にやっただと。

それから、私、この3期目の方針を立てるときに駅へ行かまして、観光のいろいろなリーフレットやパンフレットを見ましたら、善光寺までは書いてあるんです、何でも、中央通りから、で、美術館を書いていないところもあるんです。

それで、観光ビューローにわざわざ、申し訳ないけど来ていただきたいと、私たちはこれからもっともっと、観光も含めて、地域との結びつきをしたいということを話しました。それがきっかけでかなり、向こうの方から動いてくださることが多くなりました。ですから、反応というのは、実質、まだ始めて2年ぐらいです。それからやっと一つの冊子もできました。私はこれからだんと思っております。

それから小坂委員や石川委員さん、ここのメンバー、去年と全然変わってしまいましたよね。だから私は途中から入りましたから、2期のいわゆる指定管理は何も言えないんですよ。もう決まったことをやらないといけない。自分をもっとアクションを起こさないといけないというためには、やっぱりそれに見合う人をやっぱり担当してもらおう。こういったことはすぐにはできませんけれど、だんだんと後ろにいる職員が頑張ってくれるのではないかと、そう思っております。あと建物は、当然それに付随して関係しますのでまた後ほど。お願いいたします。

○猿渡委員

今、地図の話が出ましたけれども、私、ちょっと早目に新幹線の長野駅に到着しまして、一番にインフォメーションセンターに行きました。それで地図をいただきまして、信濃美術館にはどういうふうに行ったらいいですかと言いましたら、もう本当にスラスラと、1番バス乗り場からこの3つの路線のバスが行っていて、善光寺北というところで降りてくださいと、それから歩いて5分ほどですというふうに簡潔に説明をしてくださいます。これまで私、何回か来ていて、いつもタクシーを使ってしまうたり、反対に善光寺さんにつながる門前町のところをずっと歩いてきたりして、今回初めてバスを使ってみました。そうしましたらば、多分これから新美術館をつくるという中でも検討がされているようですけども、まさに善光寺さんのお庭と、そちらは何年か前に見せていただいているんですけども、道路を挟んで今度は美術館の前のお庭と建物があって、これがもし全体が一つのまとまりのあるスペースになったらきっとすばらしいすごいことができるだろうなというのを、雨の中で何か想像しながらこちらに歩いて来ました。

1年、ほぼ多分1年にわたって、この門前研究プロジェクトの成果を実現されてきたということも、ただある期間、一定の期間だけに絞るのではなくて、1年にわたって活動を展開されてきたというのものすごく町の方々とつながりを強いものにしたと思いますし、きっと、今、橋本館長さんおっしゃれたように、これからの大きな支えに町の方々がなってくれるのではないかなというふうに思います。

こちらのコレクションも本当にすばらしいですし、今までも、すごく手ごたえのあるような、美術館の中でも評価をされるような、数々の展覧会とかはこちらはされてきていますので、ぜひそれがもっと町の方々の目に届くように、手に届くような形で、プロジェクトをさらに展開されていけたらすごい力になるんじゃないかなというふうに思いました。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。今度は私のほうから古田委員さんに。

藝大の美術館もでき上がって、そしてもう何年かになりましたよね。いろいろな企画もされていらっしゃる。前回、向こうの、都の美術館は私も地域との関係、藝大さんも加わっていますけれども、そういう地域の連携というのを深くやっていますけれども、そのことについてはいかがでしょうか。

○古田委員

ご存じのとおり、東京藝大は上野の森の隅っこに当たります。そもそもの上野公園の、明治に始まる文化施設の東博を中心とした文化ゾーン、たまたまその脇に美術学校をつくったということでして、それから10数年前にあそこに美術館を建てたところ、結局は上野駅から上野公園を通して来ていただくというその中で、当然、全体としての上野の森と呼んでいます、今、まさに2020年に向けてそれを結束しようという動きが強くなります。ですから初めからではなくて、自然にそれが積み重ねられて、これからも、特に2020年に向けては一体感を出していこうというような動きがこここのところ見受けられます。

ただ成り立ちが全く違うものでして、国であり都であり、そして私たちは大学であると。その違いも、ある意味では乗り越えなければいけない部分も多々あるんですけれども、全体として上野を日本の、東京の文化ゾーンとして世界から見ていただくという動きは藝大も積極的に参加しているところです。

○橋本館長

ありがとうございます。それから、若麻績委員さんから先ほど、東の庭の大変建設的なご意見をいただきまして大変ありがたく思っていますけれども。これからもそういう連携を深めながら進めていきたいと思っておりますけれども。

何か今までの、私からすると善光寺さんのほうが多くやられているんですよね、いろいろなイベントを。それはもう私たちが学ばないといけないんですけれども、そのイベントも含めまして何かご意見いただければと思います。

○若麻績委員

すみません、先日も久石譲さんのコンサート、並びに、そしてまた8月に入りましてコンサートを行いますし、そしてまた毎年行っております8月5日・6日ですか、びんずるの日には午後5時から採火式を行ってということで、そのびんずるの、びんずる祭の名前の由来なんですけれども、賓頭盧尊者という方はいろいろな病気というものを治してくれる。まあいわゆる北信のずっと長い不況を少しでもよくするようにというような形で、今年で44回目ですか、というようなかなりの歴史あることになってきましたけれども。そういうような形でびんずる祭ということの名づけましたので、それで善光寺のところから、不滅の灯明から火を持って、それで下のほうで火がまに移って、それで盛り上げるという、そういったようなこと。そしてまた8月14・15日は10年前から始まった、今年10回目を迎える盆踊り、そういうようなことで夏という形になっております。

そういうようなイベントというのも独自であり、そしてまたいろいろなところからお願いされて、善光寺の本堂を使ってということで、本当に気軽に本堂とか、善光寺の周辺を使っただけであればという、そんなような考えでございます。

○橋本館長

新しくここが整備されれば、またそういった行事が、こことタイアップして、また拡大されればと思います。

和田委員さんは先ほど静岡とおっしゃったんですね。静岡県立美術館、これも立派なものがありますし、それから熱海にはモエがあります。それから浜松へ行くと音楽はメッカですよ。そういった意味では、いかがでしょうか、そういう地元と、こちらにいらっしゃっての違いやよさなど。

○和田委員

静岡県は、何というのか、東海道を幹としてそれに産業であったり文化だったりとか、何ですか、県全体に広がっているという感じはそれほどないですよ。だけれども、こちらに来させていただくと、長野市、松本市、あるいは軽井沢を初めさまざまところに美術館とかがあって、これは何か、サイズの大小はあるんですけども、これがやっぱり全く本当にすばらしいなと、こう広がり、面として広がっているというのがすばらしいなと思っていて。

あとまたちょっとお話を換えさせていただくと、私はデザインがもともとメインなので、どちらからいうと近代美術館的な、本当にデザインだとか、ビデオだとか、そういったものも扱うようなところが私は好きなんですけれども。その中で、デンマークのルイジアナ美術館でしたか、行ったときに初めて気がついたんですけども、順路の途中に、中ほどに子供のワークショップ、常設の場所があるんです。実はさっき、ここは貝塚とかあるんですかという質問はそこに実は結びつくんですけども。一方で何を言いたいかという、いろいろな世代が文化としてのアートに触れ合う。そこへ行ったときにジャコメッティの人物像とかもあったんですけども、そのすぐそばに子供たちの粘土細工があるんですよ。そうすると、一瞬、近代美術館と思うぐらいな物が置いてあったりして。一方では、だからこういったところも何年前にここに初めて寄せていただいたときに、本当にそこに子供が遊ぶ場所があって何かちょっとホッとした思いがあるんですけども。

あと、先ほどの実際にやられてきた中に、やっぱり子供だとか障がいを持った方と一緒にワークショップをやられているというのが数多く出てきたので、これはこれからもその路線が、信濃美術館がやっているのか、やっていないかということは認識は置いて、そういう活動というのはずっと続けていただいて、何だろう、あるときは特に地方創生なんていうときには、若い学生と幼稚園ぐらいの子供とお年寄りとの会話をする、コミュニケーションする場が、今、日本でまだまだ少ないと。そういったことは実は地方創生には大切なんだという話がありまして、そういったときにワークショップも何かこう、あるいは美術館の企画も、もういろいろな世代の方が来られるようなものが何かあると何かいいなという、芸術に触れながら世代が、話しなくてもいいと思うんですよ。アートに触れるということが一種の行為としてのコミュニケーションという意味で、そういった方向が、何か先ほども、この館から出たときの活動に何か見えている、何か将来像なんかはまだまだいろいろあるんじゃないかなというふうに思わせていただきました。ありがとうございます。

○橋本館長

ありがとうございます。ではお願いします、石川委員さん。すみません、マイクが一つしかなくて、これも新しい美術館になればもうちょっとよくなると思います。

○石川委員

昨年は本当に善光寺門前プロジェクトという形で、いろいろな仕事をご一緒させていただきましたけど、信濃美術館にたくさんの人に来ていただくということ、もちろんそれが一番大事なことはあるんですけど、県内に在住、または長野県出身のいろいろのアーティストです

とか、工芸家たちが自分たちの一つのネットワーク的な核に信濃美術館があるんだという意識を持っていただくような、そういう面もまた美術館には望まれているのではないかという意味では、昨年、まだ若いアーティストの下平千夏さんを御開帳の期間に門前で滞在して、レジデンスして、何かつくってもらいたいという企画を立てたときに、本当に信濃美術館さんとご一緒だからできまして、そしてまた3週間ぐらいかかったんですけど、この、これを見ていただくと、これ輪ゴムをずっと編んでいくんですけど、それを輪ゴムを編んで最後にこういう形にしたんですが、輪ゴムを編むのは、近所のおじさんお婆さんから、観光客の方から、本当に子供から年配の方まで、こんなにみんな一生懸命輪ゴム、せっかく善光寺に来たのに、みんな本当に30分ぐらい編んでいる人もいて、もちろん5分ぐらいしかやらない人もいて、そのみんなの輪ゴムを編んでもらったものを集めて、この作品ができたんですけども。こういうことができたということも非常に大きな去年の成果ではなかったかと思います。

いろいろな方が信濃美術館が本当に、何というんでしょう、敷居が高いとか遠いところにあったものが、ちょっと近づいたというふうに感じた方もいらっしゃると思いますし、それと善光寺の東庭園で月に一回びんずる市というのをやらせていただいているんですが、手づくり市、そこでも毎月、子供が中心ですけど、対象にしたワークショップを企画していて、その中の何本かを信濃美術館さんが企画していただいているんですね。かつてはやはり善光寺の、先ほどお話が出ました堀とか土手とか、あそこと道と信濃美術館の間には距離はほんのわずかなんだけどすごく遠くて、何とかの川ではないですけど、遠かったような気がするんですが、ここ数年、いろいろな形でそういうものが自然な形で、信濃美術館さんが外に出ようという動きを見せられることで、大分、こう目に見えて近づいてきたものが幾つかあるような気がしますので、これが新しい美術館にまたつながったりしていくことを期待したいと思っております。以上です。

○橋本館長

ありがとうございます。私からすると本当におかげさまでという、御礼を申し上げなければいけない。何かお話を聞いていると、どうしてもやはり新しい美術館のほうへ行ってしまうような感じですので、時間も時間ですので、県から進捗状況を含めて報告をしていただいたほうが、あと話が進むなと感じましたので、一応、昨年度の事業報告についての質疑はこれで終わらせていただきます。ありがとうございます。

それでは議題1を終わりにして、次の4の報告ということに移りたいと思います。よろしく願いいたします。

4 報告・その他

○中坪文化政策課長

信濃美術館のあり方及び整備に関する方針について説明

○橋本館長

ありがとうございます。たくさんの資料がありますので、もうどこからでもいいと思います。とり分け、今日は猿渡さんがいらっしゃる横浜美術館は、当時、1980年代はワークショップを取り入れた画期的な美術館でしたよね、第1号と、私はもうそのときからすばらしいかと、当時、横浜国大、宮脇先生が委員で、そのワークショップのご活躍されたのもよく鮮明に覚えて

いるんですけれども、ごらんになっていかがでしょうか。

○猿渡委員

まず、このランドスケープ・ミュージアムというのは非常に長野県にふさわしくて、すばらしいなというふうに思いましたし、かなり念入りな検討をされていて、いろいろな側面の要素を過不足なく収めていらっしゃるというふうな印象を持ちました。もちろん世界各地からの観光客の方やら、あるいはステイをされる長期滞在をされる方やら、まして、こちらには軽井沢という有名な別荘地もすぐそばにありというふうなところで、もしかしたらもう少し現在のグローバル化と、それから日本への観光客がどれだけの人たちが来ているかということ強く念頭に入れておいたほうがいいのかという印象は持ちました。

今、横浜市のほうもかなり多数の外国人の観光客の方々、とりわけアジアからの方が多いですけれども、圧倒的に中国、韓国が多いので、三溪園のような施設が、いの一歩に実はバイリンガルだけではなくて、さらに韓国語や中国語を入れた多言語化の整備を、むしろ横浜美術館なんかよりも早いぐらいにスタートを切って、今、ものすごい勢いで進めていますし、実際にグーグルとか、それからインターネットによって、ちょっとした発信の仕方によっては、つい先日も私のタイ人の友人がバンコクから2週間にわたって、総勢10人でタイ人の方ばかり日本に来ていたんですけれども、やっぱりそのまわり方を見ていると、もっぱら情報源がインターネットであったり、あるいは日本のコミックであったりとかB級グルメであったりという、本当に私たち日本人と変わらない日常感覚を持って日本の中を、主には浜松、静岡あたりからずっと北海道までを回っていたみたいなんですけれども、そういうことを念頭に入れたほうがいいのかというふうに思いました。

ちょっと何か私がかようなのを見て何か言うのも僭越で、何となく口にしがたいものではあるんですけれども。あとやっぱり市民参加というのも、ここまで来た以上はもっともっと全面に、例えばリサーチセンターとかも、原三溪市民研究会というのもまさに2007年につくって、今現在、ものすごい活発なリサーチ活動を市民ベースでやっています。ですから、そうなりますと、例えば横浜美術館で三溪にまつわる展覧会なんかをする場合も、原三溪市民研究会が担える部分というのが、その忙しい学芸員が企画をするにしても、例えば原三溪市民研究会は毎年のように、生地であるとかゆかりの場所、富岡製糸場も含めて、スタディーツアーを行っていますので、本当に足で稼いだデータやら情報やら、いろいろなネットワークというのを築きつつありますので、そういうことが市民はできるんですね。だから、ぜひそういった部分でも市民との連携というのを進めていくことが、今、この信濃美術館はまさにそういう力をバックに持っていらっしゃるというふうに確信しております。

○橋本館長

ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。

それではもう自由に、限られた時間ですので、ご感想なりご意見なり、お願いいたします。

今、過不足なくといったのが長所でもあり、私は短所かなと、いわゆる戦略の面で、あまり満遍なくまん丸だといけないのではないかというふうに、私は受け取りましたけれども。

○古田委員

感想として、今の新美術館の構想、とても夢の膨らむ、これを本当にできるのかなみたいな、そんなことを言うといけません、これができたらすごいぞということです。それはもう長野どうのこうのではなくて、これをやれば、それは世界に発信することだと思います。またそうでないと、今、猿渡さんがおっしゃったとおり、ではここに来ようというような発信をするためにはお隣さんに言ってもだめなので、いまやどこから聞きつけてくるんだろうというような、

発信している側にもわからないような状況というのが起きます。

とても素晴らしいなと思っている、これは今現在やられている、ご説明いただいた事業の中でもこれは特徴的なことなのかと思いますが、この教育普及事業についての、非常に充実した内容にとっても驚くぐらいのことで、さすが長野というのは昔からの美術県と認識していますが、ただ美術館がたくさんあるということではなくて、その内容がきめ細かくて、素晴らしい事業を展開している。

一つ質問ですけれども、この、特に教育事業のさまざまなプログラムというのはどこから発想されているのでしょうか、館長さんの強いリーダーシップなんのでしょうか。

○橋本館長

私、先ほど言いましたように特別委員なんです、複雑な立場です。だから、この指定管理制度のもとにいますから、私の意見はあまりここで申し上げたくない。私自身が教育面は当然専門なんですけれども、まだまだこれ具体化されていないと思います。だから、やっぱり満遍なくやはり書いてあるけれども、これを具体的にできるかどうかということになると、いろいろな課題がたくさんあります。その辺は、今、ここで申し上げると、あまりにも時間が足りなくなりますので、それだけにしておきます。課題がたくさんあるということです。

○古田委員

さまざまな建築の問題であったり、展覧会の内容とか進め方であったりと、もう多岐にわたっていますので、これはそういう場が別にあると思いますけれども。

私がほかの、こういった県の美術館の協議会に参加させていただくときに思うことなんですけれども、やはり人をつくる美術館であってほしいなと思います。それは、まさに中学生や高校生に対して教育をすること含めますけれども、そういうことよりも、人というのがやっぱり物から何かを受けるといふ、人から人へもそうですし、物から何かを受けとって、その美術館でこういうものを見たというような経験が人を育てるといふのが美術館の仕事だと思わなければならない。なので、どう見せるのかということが学芸員の仕事になるわけで、そのためには学芸員を育てなくては行けません。つくるといふか、学芸員がその、この長野の新しい美術館では、学芸員がこれだけすぐ育てているということが世の中に知られるくらいになってもらえれば、それに越したことはないなと、感想を一つ。

○橋本館長

本当に貴重な意見をありがとうございます。今日午前中も会議があったんです。館長会議が。そこで私申し上げた、図画工作は小学校で大好きだというのが80%、音楽は60%、国語は20%、これだけ高い音楽や美術を支持しているのが、なぜ、だんだんと年齢が高くなるに連れて関心が薄くなってしまふ、これは受験とか社会の問題とかいろいろなものがたくさんありますけれども。

いずれにしても、小さいときからいわゆる本物に接する、そういった機会をつくっていかなければならない、と同時に、今おっしゃったように、それを指導する、指導といふかファシリテーターとしての学芸員の資質の問題も重要だと思います。ありがとうございます。石川委員さん。

○石川委員

今の古田委員のご意見とも重なるんですが、コンセプトがだんだんいろいろ見えてきたりして、大変期待が膨らみますけれども、ごめんなさい。やはりこれだけの美術館をつくっていくとしたら、本当にその運営体制、学芸員も含めてこれを同時に、同時進行的に今後の美術館の

ランニングコストにもかかわってくるんだと思いますけれども、ぜひ、その運営体制も同時並行的に検討を進めていただきたいと思います。以上です。

○橋本館長

多分、県は考えていると思いますけれども。お願いいたします。

○小坂委員

今、石川さんのお話と似たようなことなんですが、これは善光寺の東庭園と城山公園一体的な整備というのはものすごく壮大で、期待できることだと思います。それで、これ具体的に進むとなると、東庭園は善光寺さんの持ち物ですね。それで城山公園は長野市、それで美術館を整備するのは県ということだと思うんですが。

実際にどうやってやるんだろうということを、別に私が教えていただく必要はないんですが、やっぱり相当難しい事業の進め方になるんだろうなという感じがするので。それとできた後の役割分担なども含めた、そういうことも含めて進めないと難しいんだろうなという感想を持ちました。以上です。

○中坪文化政策課長

ありがとうございます。善光寺さん、長野市さんとも一応、そのプロジェクトチームと申しますか、会議の場を重ねておまして、長野市さんの広い公園区域、この美術館があるだけではなくて、周りの城山公園も相当いろいろな施設がございますので、そういったところも含めて、また善光寺さんとの関係も含めてしっかり検討していきたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○和田委員

先ほども古田さんがおっしゃられたような学芸員の方の、何だろう、総合力というのはかなり問われていると思うんですね。美術品を購入するのであれば目利き力が必要である、それから子供やお年寄りとワークショップをやるとなれば教育の部分と一緒にとけ込むというのをやると、もう本当に幅広い能力が必要、特に目利き力なんていうのは、人から教えられるものではなかなか、なかつたりするわけですね。

美術館の運営については、その目利き力というのは実は一番大事な力なのではないかなと思われま。日々研鑽されているんだと思うんですけれども、そういった積極的に人に使う時間だとかお金だとかというのは、やっぱり潤沢にこれからあるべきかなと、何にお金を落とすのか、新しい美術館なのか、そうではなくて、やっぱり人にとというのがやっぱりあるんじゃないか。

それから、先ほどからつらつら書いてあるランドスケープ・デザインというか、ずっと頭の中にぐるぐる回っているんですけれども、コンペ、コンペの形式ではなくて、まず設計事業者を選んでからということだと、書かれていたので、最初の初期段階はきつと、だから本当に先ほどの運営の仕方も含めて、公園と、それから善光寺さんとの関係等含めた、トータルでのまちづくりに近いものだと思うんですね。そんなときどんなふう、運営もしかりなんですけれども、最初にラフのアイデアを県、それから美術館と、それから設計者との間のやりとりが何回も続いていくんだろうなということを考えると、そこでやはりいろいろな意見を入れ過ぎると、館長、先ほどおっしゃられたように丸くなってしまう可能性もあるので、やっぱりどこかどんがったところ、日本が誇れるどんがったものを持っている構造にするということはやっぱりどこかに、頭のすみに置いておかないといけないのかなという気がして、その2点、やっぱり大事にしていいただければなと思いますけれども、ありがとうございます。

○橋本館長

いや本当に貴重なご意見なんですね。どういう、同じです。言葉がきれい過ぎて、これでもうでき上がったような感じがしてしまったりするんですね、これが怖いんです。

ですから、その辺、課題が多いと言ったのはそのことなんですね。具体的なことに入ったとき、それこそ目の前にいろいろなハードルが来ると思うんですね。それをどう、期間も限られておりますので、建物を10年後につくるんだったらいいんですけども、かなりもう限られた年数でつくらないといけない。そういった中で、大丈夫なのかという気持ちはあります。これは、県はもう何しろ、努力しますということしか言えないと思いますけれども、まさにまだ設計者も決まっていますので、決まれば、かなりもう一歩進むんですけども、今、何も決まっていない段階です。

どうぞ、まだたくさんあると思いますので、時間も来てしまったので、これだけは今日はおっしゃりたい委員がいらっしゃれば、お願いいたします。

○猿渡委員

当然、もう想定されていることかと思えますけれども、やはり一度つくった建物はもうそれをずっと何十年間にわたって、かつ中身を充実させて、休館日を除いてももうずっと何年も運営をしていくことになりますので、やはり運営にどれだけかかるのか、建物の維持管理にどれだけかかるのかという、もう箱物行政といったような言葉は死語になっていると思えますけれども、むしろ、中の人間こそ重要であって、場合によって、確か鳥取県だったと思えますけれども、博物館構想があったのを建物をつくらないという決定をしたんですね。ただ、そこ博物館を支える学芸員たちはいます。ほかの館から移った方もいらっしゃってさまざまな試みを、砂丘であったり、あるいはその博物館の古い建物の中であったりということで実際にされています。だから、むしろその美術館のイメージを、どうしても最近話題になっている金沢の21世紀美術館ですとか、あるいは瀬戸内海のほうの直島ですとか、あるいは今、盛んにたくさんの人を呼び寄せている北川フラムさんがやっていたらっしゃる大地の芸術祭といったようなことが、多分、一番近い例として誰の頭にも浮かんでしまうんですけども、実はそれをまねすることは得策ではない。むしろ、それをまねしないで、いかに長野ならではのものをつくるか。

そのときに、私、実は鎌倉市の美術館構想というのはちょっと頓挫したんですけども、その構想のときのずっと委員をやっています、やっぱり鎌倉の歴史、それから地勢、そういったものがものすごく重要で、むしろ議論はそこから出発するほうが大きな、的確なランドデザインが描けるという、先ほど確か和田先生もおっしゃっていましたけれども、やっぱりランドデザインをいかに描くかという。まちづくり的なことも含めて、そこから行かないと、どうしても、美術館としては完璧かもしれないけれども、ではそれを何十年間にわたって生きた活動隊としてやっていけるかというのが、ちょっとなかなか見込みが難しくなってくるのかなと。

今、このような世界情勢ですので、どういうことになっても、ここだけは死守というか、きちんとやっていくというような何か強いものがないと、なかなか難しいのかなという、何かちょっと暗い話で申しわけないんですが、あるいは厳しい話で申しわけないんですけども、ちょっと最後に言わせていただきました。

○橋本館長

いえ、私は大変ありがたく思っているんです。今、言った危機意識のご意見や、ランドスケープって本当に大丈夫なのかというご意見が、この1年間あまりなかったんですね。だからすごく、私は胸にストンと落ちるご意見で、そういった、例えば21世紀美術館の場合は、今、今

度は秋元（雄史）さん、お隣にいる芸大の美術館の館長になられたんですよ、今、二股で、1週間に1回ぐらい金沢へ行かれていますけれども。いずれにしても、直島にしてもフラムさんのやっているようなこと、そういったことがやっぱり発言で出てくるわけです。と、何かそこに、その同じようなことをすればいいものができるという、何か私、これ記録に残してもらっては困るんだけど、やや錯覚めいた、そういう方向で行くきらいもある。この辺はやっぱり県としてはもっと慎重にやっていただきたいなと思っています。

とりわけ、私はランドスケープはもう1960年代からありますよと、何か新しい言葉ではないですということも申し上げたんですけれども、何か言葉に酔っているというのが、先ほど言いましたように、全体に丸くなっている。それを私が今、現場にいる者として言わなければいけないなとは思っております。ありがとうございます。

それでは時間がまいりました。どうしてもという委員いらっしゃいましたら、ぜひ県に対して、県の報告です。

ありがとうございます。それでは貴重なご意見を、本当に短い時間でしたけれども私にとってはたくさんいただいたと、そう思って、本当にこの会を開いてよかったと、そう思っております。本当に本日はご助言ありがとうございました。

当館としても、また県当局と一丸となって県民の皆様のご意見をまた聞いて、より親しみのある県立美術館としてこれから努力していきたいと、そう思っております。

それでは、これで終わりますけれども、もう既に本館、ここが本館と私たち言っていますけれども、東山魁夷館も含めまして、まだごらんになっていなければ、ごゆっくりご鑑賞いただければありがたいと思います。

本日はご多忙のところ本当にありがとうございました。これで本年度の協議会、前半ですけれども、終わらせていただきます。ありがとうございました。